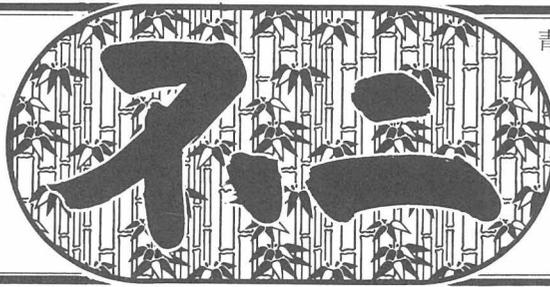


青年僧よ 立ちあがれ、歩め!!

発行所  
臨濟宗青年僧の会  
発行人 藤原東演  
〒420 静岡市御幸町11の4  
TEL 0542-51-1312  
〒振替 横浜 2-16960



事

\*喝 西片義保老師

記

\*会のもち方 シリーズIX

な

\*この人この道 ダルマ子ども会

主

\*ビハーラ提唱 森 政弘博士  
田宮 仁

宗教家のモラルは、禁欲だ。戒というものがある。それを守らにやあいかんという、自分に対する心構え、その痛みがあるか無いかが大切だと思います。

比丘の二五〇戒、比丘尼の三四八戒といいますが、現状に合せたことは、やらなければいけないと思います。

例えば、肉を食べにやあいかん時、只、当然のこのように食べるのと、あ、すまんなど、到底許されな思っ合掌する。そこが宗教家として、本物か偽者かの岐れ目ではないでしょうか。日々の反省が無くなったら終いです。痛みを感じなければ、在家の人達から、「法衣着てるだけじゃあないか。俺たちと何も変った所無いじゃあないか。頭を下げるのは法衣に対して下げるんだ」と言われ、一ぱいでも入ると、たちまち馬鹿にされることになる。

「これではいかん、これではいかん」と自分に言い聞かせる厳しさこそ、宗教家の生命でしょう。

骨山の根性

毎日葬式や法事をやっている方々が如法だとおっしゃいますが、本来から言えばどうですかね。

こう言っちゃあいいけんが、観光寺院の方も、ぬくぬくとしている。悪いとは言いませんが、宗教家

のモラルは、禁欲であるから、私たちは、世間の人より質素な暮らしをせにやあいかん。

世間並というけど、都会の寺は世間より良い生活をしている。

これでは、力が出ない。質素にしていれば、聖なるものに続いてゆく生活をして行ける。お寺を職業としてはいけない。天職とする。壇家の少い寺に坐り、農協、学校、役所などに働いておられる方は、大切だと思います。大いに誇



京都八幡 円福僧堂師家

モラル無きは

宗教家にあらず

に頑張っていること自体が尊いのであって、自ら備ったものができてきますよ。

本分の精神を失うな

世間一般では、学問が尊ばれることが主流になっています。学問は、勿論大切です。時代が下れば下る程、体系的に普遍的に伝えなければならぬけど、本物を追求するという精神を失ってはいかんと思う。学問となると精密になっ

てくるから、そこに迷い込んでしまつと、真宗でも念仏が疎かになつてしまつという。

禅宗の法衣着て、禅宗のお経読んでも禅宗坊主といえない。一日十分でもいいから朝課の後でも坐ると、必ず壇信徒を引きつけるものが出来ると、私は思う。自分に厳しく切磋することが大切。人は見えてるんです。

やはり、宗教家に求められているのは、俗から離れた聖なるもの

です。我々は、仲々得られんけど少くとも、形を通して、聖なるものを見せんことには、どうにもならん。その姿勢を保っていると、そういう人が集ってくる。説法も大切なことです。リフレッシュし、自分を振り返る事になります。喋ることは、自分を確めることです。

維摩の一點と、黙っている人も居ますが、やはり、自分を確めるには、ある程度喋らにやあできな

西片義保老師

い。それには、無心になる事です。相手と一つになる。無心とは仏心で、自他不二です。相手の悲しみは、自分の悲しみという根本を忘れて技術に走るから誤るのです。

神仏を振り回してはいないか

反論できない事を声高に言うのは問題です。仏とか神とかという言葉をあまり振り回す事は、自分に力の無いことを表していることになるのではないのでしょうか。

旧日本軍の天皇陛下のように、絶対的なものを持つてくるのは、ある意味で卑怯です。一刀両断に解決できるものは無いのです。人間は皆、ドロドロしたもので、だという事を理解しなければいけない。

悩むことの大切さ

何度逃げ出そうかと思った。やるか、やらないかは、本当は僅かのことなんだ。あっちへ行くか、こっちへ行くか、そこに踏ん張るかどうかの事なんだ。私は、とことん迄やりたかつたし、夢中でした。きついし、何度こんな所で貴重な人生を費し、肥えたご担いでおつて良いものだろうか、と悩みました。悩むことよって人間の中は、広がってゆく、悩むから人間は、バランスがとれてゆく。耐えてゆく、悩むことは大切な事です。悩む人間は幸せなんです。悩まん人間は恐いな。それをどう解決するかは、自分自身だと思えます。他人の失敗は、自分の失敗なんです。

坊主は乞食、上座に坐るな

「どうしても社会的地位のある方に頭を下げがちですけど、そうじゃあないよ」  
「寺は、半端者が正客なんだから、半端者が主客なんだから忘れ

ちゃあいかん」

「坊さんは、乞食なんだから、決して人の上に坐っちゃあいかんよ」、と常に雲水に言うんです。なまじ人様から老師なんて低頭されると、ついその気になってしまから、私は偽老師、坐禅職人なんだ」と常に自分に言い聞かせているんです。だから表に立つちゃあいかんと常に思っています。

人間は、弱いものだから表に立つと実力以上に自分を思い込む、人と思つてくれるものですからね。食事でも私は、自炊です。

人間は、いくらやっても自分以上の上のことは喋れんし、行えんし、何をやろうとしても自分以下の事は出来ないのだから、飾る必要はないんです。

あせれ、のたうち回れ

若いエネルギーが無きゃあならんし、あせらにやあいかん。会社でも何でも、トップの人は、気が短くてあせるから力が出るんだ。即今の問題が無くちゃあいかん。今、この時しか無いという気が無いといけない。

人間なんてものは、のたうち回つて生きているんだ。私も何度も大病しています。新興宗教に入る老人は、現世利益に弱いというが、痛みを取ってほしいのだ。「大変だなあ」ではいかん。痛い所を摩

つてやらにやあいかん。それが一つに成り切っている姿です。

最後に物言うのは、祈り

人間と動物の違いは、理性だなんて言うけど、祈りです。本当にギリギリの所に行つたら、祈らずにいられないですよ。ガンで死ぬ人、七転八倒している人にも祈りしかないんです。祈ることによつて、人間は、大きな力が出てくる。真の力が出てくる。

自分の大慈悲心さえ持つていれば、水子の供養はいかんなどと言う事はないと思う。そこから出てくるものは、何であつても、何にでもなる。

金にならない経をよむ

私は、師匠から「お金にならないお経だけを誦む坊主になれ」と言われました。一所懸命に修行して本当の力が付けば、お金になるお経は誦まんでも済む。これは、お金をもらつてはいかん、ということではなく、お金を貰われるに卑屈に思うのは、如法に生きとらんからで、精魂込めてお経誦んだら淡々として受け取れます。命懸けで誦まんものだから、こんなに頂いていいのかなと思う。淡々といつたらいい。歴史的な成り行きなんだから。本来は、こう



日本三達摩の一人 円福寺達摩像

なんだが、自分はどうだ。本来を忘れてはいけない。当然と思つてはいけない。

禅は、特別のものではない

生活そのものが禅なんだ。これは一寸誤解され易いんだが、正法不二と臨濟禪師は、おっしゃっている。修行せん人に限つて、何処で何年坐つたなどと、過去の修行を鼻にかける。釈迦も達磨も修行の真最中なんだ。

学生時代に英語を習う。卒業して三年もすれば、皆忘れていく。修行もそうなんだ。しかし、今が大切なんだ。日常底の一つ一つの事を丁寧を務める事が、背中で説法する僧に、自分を高めて行くのです。痛みを知り、感謝を忘れず優秀な後継者を育てる僧であつて下さい。(文責編集)

臨濟宗御法衣調進所

分山回八郎法衣店

〒460 名古屋市中区大須三丁目39-31  
電話 <052> 241-1817  
夜間日曜 <052> 851-1728

臨濟宗法衣佛具

湯湯浅法衣店

〒602 京都市上京区千本通水上ル 電話 (075) 463-2377番